

## 【OJT・OFF-JTについて】

### 事例No. 12

## 特別支援学校のセンター的機能の活用（町田市取組）

### （1）基本情報(平成29年9月1日現在)

特別支援教室利用児童数	351名
巡回指導教員数	37名
拠点校数	4校
巡回校数	25校

### （2）取組のポイント

特別支援学校コーディネーターによる町田市立小学校特別支援教室訪問を実施した。

特別支援学校コーディネーターが訪問する際の資料（時程・懇談内容等）の様式を作成し、該当する学校に送信した。

特別支援学校コーディネーターが各学期ごとに特別支援教室を指導する体制を整えた。

### （3）実際の取組

#### 【平成28年度のシステム】

拠点校はモデル校の1校のみだったため、市から特別支援学校へ特別支援学校のセンター的機能を活用した特別支援教育コーディネーターの訪問を依頼。

モデル校と特別支援学校のコーディネーターとで直接訪問日程の調整を行った。

市が特別支援学校へ特別支援教育コーディネーター訪問を依頼



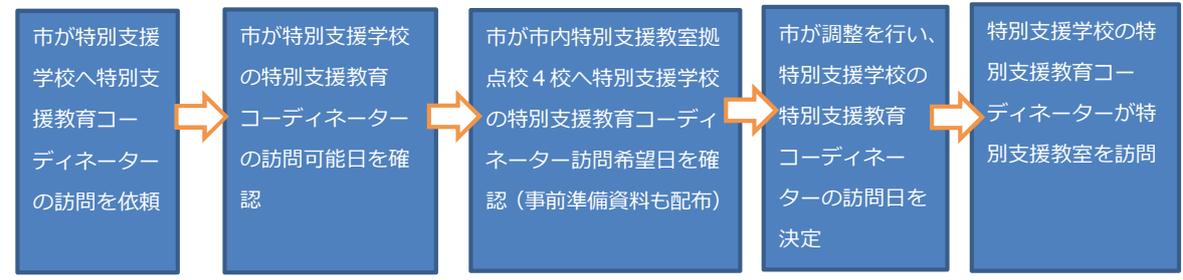
特別支援教室と特別支援学校の特別支援教育コーディネーターが直接訪問日を調整し決定



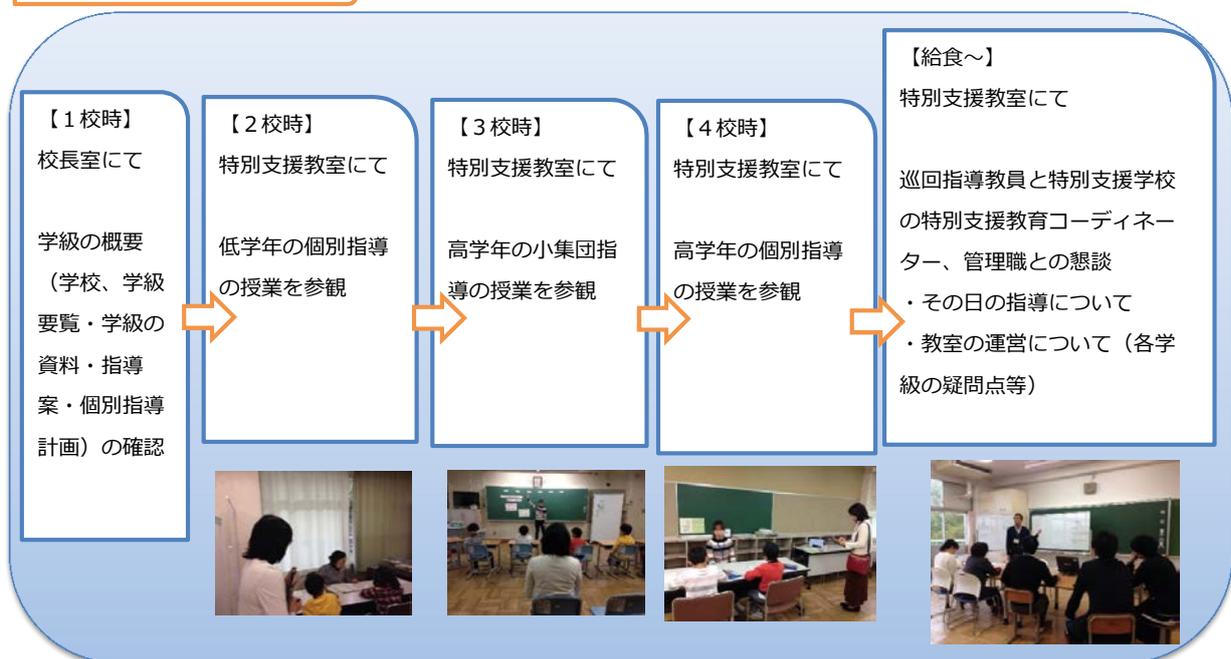
特別支援学校の特別支援教育コーディネーターが特別支援教室を訪問

## 【平成29年度のシステム】

拠点校が4校に増加したため、学校ごとの日程調整や準備資料の方式を統一した。各学校につき各学期に1回程度、年間1校につき各3回×4校=12回程度の訪問を実施予定。基本的には、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターが毎回2名で特別支援教室を訪問。



### 訪問日の主な時程(例)



## (4) 取組の成果と今後の展開

### 【取組の成果】

- 特別支援学校の特別支援教育コーディネーターが特別支援教室を訪問し、特別支援教室における児童や教育活動の状況を把握するとともに、当面する課題について巡回指導教員及び在籍学校の管理職と話し合うことができた。
- 児童の発達の課題と指導の目当てが合っているか等、特別支援教室の実際の指導について専門的な知見からアドバイスを得ることができた。
- 特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの訪問に関し、市が日程調整することで、市内特別支援教室の小集団指導や個別指導の取組について、学校間の格差を排し均一的な向上を図ることができた。

### 【今後の展開】

- 市内全校実施となる平成30年度は拠点校が8校に増えるため、特別支援教室訪問の回数や頻度を検討する必要がある。(特別支援教室新規開設校は年3回とし、それ以外の学校は年2回や1回+希望制にする等)

**巡回指導体制の編成について工夫した取組**  
**～東久留米市立第七小学校の事例～（東久留米市の取組）**

**（１）基本情報(平成29年9月1日現在)**

特別支援教室利用児童数	155名
巡回指導教員数	15名
拠点校数	4校
巡回校数	9校

**（２）取組のポイント**

一日巡回校勤務と半日巡回校勤務を組み合わせることで指導体制を編成した。

**（３）実際の取組**

**①取組の背景**

・本市では、特別支援教室全面設置への移行措置として、一部の生徒が他校通級を行っている。七小では、巡回校が3校、拠点校を含め4校の指導と通級日指導を月曜～金曜の5日間で行っている。週に1日は拠点校の指導日であるが、拠点校の児童が21名おり、1日での指導が困難であるため、半日巡回日を設定して残り半日を拠点校の指導に充てることにした。

**②取組の目的**

- ・指導体制を工夫することにより、巡回指導教員同士の打合せや情報共有の時間を確保する。
- ・拠点校の児童数が他の巡回校に比べて多いため、指導時間を確保し、適切な指導を行うために取り組む。

**③取組の内容**

- ・半日は拠点校に戻り拠点校の児童の指導に充てる。
- ・戻った日の放課後は、拠点校でなければできない教員同士の情報共有の時間に充てたり、PC等の仕事に充てたりしている。

＜個別指導計画の作成や教材準備を拠点校の整った環境下（PC、机、教材等）で取り組む。＞

- ・巡回指導教員全員で各巡回校を回り、児童の指導に当たる。

あすなろ教室巡回指導教員の一週間の動き				
月	火	水	木	金
拠点校(七小)勤務	午前:巡回校(下里小)勤務 巡回校児童指導	拠点校(七小)勤務	巡回校(十小)勤務	巡回校(本村小)勤務
	午後:拠点校(七小)勤務 拠点校児童指導			
拠点校児童指導		通級児童指導	巡回校児童指導	巡回校児童指導

月曜日時間割(七小用)		火曜日午前時間割(下里小用)		水曜日時間割(通級用)		木曜日時間割(十小用)		金曜日時間割(本村小用)	
時限	授業内容	時限	授業内容	時限	授業内容	時限	授業内容	時限	授業内容
1	小集団	1	小集団	1	小集団	1	小集団	1	個別
2	個別	2	個別	2	小集団	2	個別	2	個別
3	個別	3	打ち合わせ	3	個別	3	小集団	3	小集団
4	小集団	4	個別	4	個別	4	個別	4	個別
5	小集団	火曜日午後時間割(七小用)		5	小集団	5	小集団	5	小集団
6	個別	時限	授業内容	職員会議等		6	個別	6	個別
校内研究会等		5	小集団(高学年)			打ち合わせ		打ち合わせ	
		6	個別(高学年)						
		情報共有等							

## (4) 取組の成果と今後の展開

### ①取組の成果

- ・児童にとっては、午後の時間を児童数の多い学校（今年度は、拠点校）での指導に充てることで、指導時間が確保され、有意義な取組となった。
- ・巡回校にとっては、巡回指導教員が全員いることで、巡回校での課題をその場で話し合い、特別支援教室としての意向をまとめ、課題解決することができた。
- ・巡回指導教員にとっては、拠点校に戻ることで、放課後、巡回校では取り組めないPCを使つての事務処理や巡回指導教員同士の情報共有にも充てることができ、有意義に時間を使うことができた。また、巡回指導教員全員で巡回することで、少しの空き時間も利用して打合せができ、担任間の連絡が密に取れた。加えて、若手とベテランとの間で専門性の共有ができたり、児童のグルーピングの工夫をすることができ、児童に合った小集団を組むことも可能となった。さらに、一人の児童を複数の教員の目で見ることができた点も全員で巡回することのメリットである。

### ②今後の展開

- ・取組の成果から考えられる今後の展開については、来年度以降も学校により児童数が増加したり減少したりすることがあると思われるので、児童数の減少した学校は、午前中のみでの指導とし、午後は、児童数の増加している学校（特に拠点校は、全体児童数も多く、増加傾向にある。）に行き、午後からの指導に当たりたいと考えている。
- ・取組の課題から、新たに考えられる指導体制の工夫については、年度の途中でも、児童数の増減があった場合は、該当する学校間での巡回指導体制の調整を検討していきたい。限られた指導時間を有効に活用し、情報共有等を通じた巡回指導教員同士の連携体制の構築や若手教員のOJT、児童への指導の工夫を行っていきたい。

## 巡回指導教員の研修体制の充実（葛飾区の実践）

### （1）基本情報(平成29年9月1日現在)

特別支援教室利用児童数	703名
巡回指導教員数	64名
拠点校数	7校
巡回校数	42校

### （2）取組のポイント

仮想事例を活用した演習を中心とした研修を行った。

各拠点校の教材・教具の情報を共有する。

### （3）実際の実践

#### ①研修を整備した背景

平成28年度より、小学校に特別支援教室を全校配置したため、今まで特別支援教育を担当したことのない教員や教職経験の浅い教員が巡回指導を担当する状況が想定された。巡回指導教員はその実務内容から専門性の向上は不可欠であるため、研修体制等の整備を図ることで、全体的な指導力の向上を目指した。

#### ②研修のテーマについて

以下の5点を巡回指導教員に必要な専門性と捉え、研修会のテーマとした。

- 特別な指導を実施する教育課程に関する理解
- 具体的な指導内容・指導方法
- 教材・教具作成に関する能力と教材の有効な活用方法
- 小学校と中学校の連続した指導の連携を図る研修
- 調整能力や相談対応力

### ③研修内容について

#### 【特別な指導を実施する教育課程に関する理解】

都の教育委員会が実施する研修への参加を推奨した。区の研修として、発達障害に関わる「教科等・教育課題研修」や「基礎」的な内容の講座を統合した。また、「充実」期の教員を対象とする講座の受講者数を拡大し、指導力を「発展」させるための講座の充実を図った。このような内容をガイドライン等で紹介し研修への積極的な受講を促した。

#### 【具体的な指導内容・指導方法】

巡回指導におけるOJTによる研修を拠点校ごとに実施した。具体的には、個別や小集団での指導場面に共にすることにより、指導技術を学ぶ。児童・生徒の課題に対する、教材の工夫、活用方法を学ぶ。巡回校での管理職、担任、特別支援教育コーディネーターへの指導内容や児童・生徒の変容の情報を伝え校内体制での取組を学ぶ。該当、児童・生徒の保護者への対応を学ぶ。等、特別な指導の経験がある教員と、特別支援教育を担当したことのない教員や教職経験の浅い教員等を組み合わせ、専門性の高い教員が実際の指導場面で、他の教員に対し指導場面の振り返りを毎回実施をすることで、指導・助言できる体制の構築を図った。

#### 【教材・教具作成に関する能力と教材の有効な活用方法】

巡回指導教員向けの研修にて、各校で活用している教材や教具をセンター職員が集め、研修の合間に互いの学校で活用している教材や教具を見せ合うことができる場を提供した。実際の教材や教具に触れることで、各校で作成する教材や教具へのヒントを得られるようにした。

#### 【小学校と中学校の連続した指導の連携を図る】

平成29年度の巡回指導教員向けの研修において、中学校と小学校の連続した指導をテーマとした。平成28年度の研修で活用した仮想事例の児童が中学校に就学すると仮定し、小学校での指導内容を中学校に伝える。さらに、中学校ではそれを基に指導内容を検討する研修を実施する。

#### 【調整能力や相談対応力】

拠点校を小・中に分けてグループとし演習中心の研修を実施した。講師へは、演習についての講評とテーマにおける講演を依頼した。また、教育センターに勤務する心理職員と教職専門員が協力し、運営の準備や資料作成に携わった。心理職員が仮想事例を作成し、それに基づいた連携型個別指導計画案の作成により、実際の場面で活かせる研修とした。

## （４）取組の成果と今後の展開

### ①取組の成果

- ・拠点校ごとでしか共有できていなかった教材等を共有でき、拠点校同士で多くのことを学び合えた。
- ・仮想事例を活用したことで、即実践に生かせる研修となった。

### ②今後の展開（課題）

- ・退室（レベル3からレベル2）に向けたより綿密な支援計画と指導計画を作成する力を付けられるような研修としていく。
- ・指導計画に基づいた指導と教材作りのできる力を養える研修としていく。

葛飾区教育委員会 特別支援巡回指導教員の研修内容

28年度特別支援巡回指導教員研修会 年間計画 概要			29年度特別支援巡回指導教員研修会 年間計画 概要		
	内容	会の進行等について	内容	会の進行等について	
第1回	<p>コーディネーター 研修会と共催</p> <p>全体会 ・葛飾区の特別支援 教育の取り組み ・レベル1～3の判断に ついて</p>	<p>14:30～15:20</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葛飾区の特別支援教育について</li> <li>・葛飾区の人材活用 (特別支援教室巡回指導教員・特別支援 教室専門員・巡回指導員・生活スキル アップ指導補助員、クラスサポーター・ 専門家チーム・生活サポーター)</li> </ul> <p>15:20～16:20</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レベル1～3の判断・年度の入室日程</li> <li>・27年度情緒教室入級の総括・ガイドライン の活用</li> </ul>	<p>全体会 ・巡回指導教員の役割</p> <p>・情緒指導の重要性</p>	<p>14:30～15:20</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葛飾区の特別支援教育について</li> <li>・巡回指導教員の役割</li> <li>・研修会の年間予定</li> </ul> <p>15:20～16:25</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師による講演 「情緒障害児童・生徒の指導の重要性」</li> </ul>	
第2回	<p>28年度は小学校のみ教 室が開室されたため、小学 校の巡回指導教員が対象</p> <p>全体会 午前の部 ・発達検査の読み取りと 活用について ・仮想事例から読み取る 児童の見立て</p> <p>午後の部 ・個別指導計画の作成</p>	<p>9:10～11:55</p> <p>講師による講演 1時間15分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「発達検査の読み取りと活用について」 実習 30分</li> <li>・仮想事例から読み取る児童の見立て 講師からの指導 1時間</li> <li>・各拠点校の発表内容に、講師からの指導</li> </ul>	<p>全体会 午前の部 ・学習障害の児童・ 生徒への指導</p> <p>午後の部 ・指導に役立つ教材 作り</p>	<p>9:10～11:55</p> <p>講師による講義(1時間)午前はひらがな・ カタカナ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画14分程度も含む</li> <li>・ストローの検査説明</li> <li>・データの見方</li> </ul> <p>実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カード作り</li> </ul> <p>講演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにテストをするか</li> <li>・論文の紹介</li> </ul>	
第3回		<p>13:40～16:30</p> <p>ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「連携型個別指導計画」の作成 1時間程 度</li> <li>・模造紙に拡大した個別指導計画に記入 し、展示 50分</li> <li>・講師から指導を受ける 1時間</li> </ul>	<p>午前と午後の間に拠点 校ごとに自主作成した、 LD傾向の児童・生徒に 使用する教材の展示と 供覧</p>	<p>13:35～16:30</p> <p>講師による講義(45分)午後は漢字</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字に特化した練習法</li> </ul> <p>実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材作り</li> <li>・拠点校グループ対抗 サンプル10個 作成</li> <li>・出来たものを黒板に貼る (模造紙半分の大きさに1個)</li> <li>・評価と講演</li> <li>・動画17分程度</li> <li>・講評</li> </ul>	
第4回	<p>コーディネーター 研修会と共催</p> <p>グループ活動 (拠点校2つ合体) ・教室終了段階の判断 と手順 ・指導による成果と課題</p>	<p>14:40～15:10</p> <p>問題点の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にまとめておいた各学校の問題点を、 司会者の指名によって報告 (小学校2、中学校1件)</li> </ul> <p>15:10～16:25</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講評と講師の講演</li> <li>講演内容 「情緒障害の指導を受けている児童・生徒 の指導終了段階の判断と手順について」</li> </ul>	<p>全体会 ・事例に対する指導の 在り方を探る</p> <p>・小学校から中学校へ の指導の引き継ぎ</p>	<p>14:35～15:10</p> <p>実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例に対する指導の在り方を探る</li> <li>・拠点校から1～2名程度に分かれ 提示された事例を基に指導方法を話し 合う</li> <li>・拠点校に戻り、各グループで話し合った 内容を報告し合う</li> <li>・指導の違いや幅の広がりを捉え、その 違いを発表する</li> </ul> <p>15:10～16:10</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師による評価と講演</li> </ul> <p>16:10～16:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校から中学校への指導の引き継ぎ</li> </ul>	

## 巡回指導教員専門研修

- 1、期 日 平成 28 年 7 月 29 日( 金 ) 9時00分～17時00分  
 2、場 所 葛飾区教育センター 研修室 1  
 3、内 容 第 2・3 回 午前の部 (講演・第1協議)  
 ・発達検査の読み取りと活用について  
 ・事例から読み取る児童のみたて  
 午後の部 (第2協議・グループワーク)  
 ・個別指導計画の作成と発表  
 ・障害の特性に応じた指導方法や教材教具の共有

時間	内容	補足
9:00～9:10	本日の研修内容の目的・講師紹介	
9:10～11:55 研修室1	講演「発達検査の読み取りと活用について」1時間30分程度  事例の提示 「事例から読み取る児童のみたて」30分程度 ・拠点校ごとに、事例の児童のみたてを考える。 ・拠点校ごとに作成した内容を、5分程度で発表する。 * 事例の児童の課題や特徴を考える。 * 考えられる支援の方向性や支援計画のベースになる言葉を考える。  講師から指導を受ける。1時間程度	「学校生活支援シート」を使用  ワークシートを用意する  拠点校ごとに話し合った内容をメモし、コピーして午後の講師に渡す
11:55～12:00	謝辞と事務連絡	
13:30～13:40	午後の部 開始のあいさつと講師紹介	
13:40～16:30 研修室1・2・3・ 研修室1	ワークショップ ① 「連携型個別指導計画」1時間程度 ・拠点校ごとに午前の部で示された事例について、設定したみたてやアイリスシートの中で記入されたその他の情報を整理し掌握する。 ・拠点校ごとに意見を出し合い個別の教育支援計画と、個別指導計画を考える。 ・拡大された教育支援計画表や指導計画表にまとめる。 ・出来上がった計画表を壁に掲示する。(研修室1) ② 講師の先生から指導を受ける。研修室1へ集合 2時間程度 ・掲示された計画表の一つ一つへの指導と助言を受ける。 ・事例の児童にふさわしい教材の紹介。	・拠点校ごとに発表する用紙についてはPDF形式で投影するか、拡大用紙に記入したものを壁に貼って発表するかは講師の指示で決定 ・ガイドライン中の「連携型個別指導計画」を使用する
16:30～16:40	謝辞と事務連絡	
<b>詳細事項</b> ・仮想事例はアイリスシート形式で、1冊の形で用意する。 印刷物＝①次第と座席 ②仮想事例 ③ワークシート(学校生活支援シート・連携型個別指導計画) ④アイリスシート ⑤自立活動について ⑥感想用紙 ⑦講師からの資料があれば		

29年度 巡回指導教員専門研修 進行表

1、期 日 平成29年5月19日(金) 14時30分～16時30分  
 2、場 所 葛飾区教育センター 研修室 1  
 3、内 容 第1回 ・巡回指導教員の役割  
 ・情緒指導の重要性

時間	内容
14:30～14:40	全体会 ・挨拶 ・職員紹介
14:40～15:20	29年度 ・葛飾区の特別支援教育の取り組み ・巡回指導教員の役割 ・研修会の年間予定 ・講師紹介
15:20～16:25	講師による講演 「情緒障害児童・生徒の指導の重要性」
16:25～16:30	謝辞

その他

・小、中とも拠点校ごとに集まれるよう、座席の配置をする。  
 ・「巡回指導教員の役割」を話す時に、昨年度2回教室の観察をしてみとめた情報について提供する。  
 ・研修室の確保  
 ・中学校特別支援教室の担当をしている心理士に会の参加を促す。

29年度 巡回指導教員専門研修 進行表

1、期 日 平成29年7月27日(木) 9時00分～17時00分  
 2、場 所 葛飾区教育センター 研修室 1・3  
 3、内 容 第2・3回  
 ・仮想事例(LD)や発達検査、担任からの資料を基に支援計画、指導計画を作成する  
 午前部 (グループワーク) 支援計画、指導計画に沿った教材を作成する  
 午後部 ・評価と講演

時間	内容
9:00～9:10	本日の研修内容の目的、講師紹介
9:10～11:55	講師による講演 1時間 午前はひらがな・カタカナ ・動画14分程度も含む ・ストロークの検査説明 ・テータの見方  実習 ・カード作り  講演 ・どのようにテストをするか ・論文の紹介
11:55～12:00	事務連絡(屋食時の注意と午後の開始時間)
13:30～13:35	午後の部 開始のあいさつと午後の内容確認
13:35～16:30	講師による講演 45分 午後は漢字 ・漢字に特化した練習法  実習 ・教材作り ・拠点校グループ対抗 サンプル10個作成 ・出来たものを黒板に貼る(横造紙 半分の大きさに1個)  ・評価と講演 ・動画17分程度 ・講評
16:30～16:40	謝辞と事務連絡

29年度 巡回指導教員専門研修 進行表

1、期 日 平成30年2月19日(金) 14時30分～16時30分  
 2、場 所 葛飾区教育センター 研修室 1  
 3、内 容 第4回  
 ・仮想事例に対する指導の在り方を探る  
 ・小学校から中学校への指導の引き継ぎ

時間	内容
14:30～14:35	全体会・挨拶・本日の内容・講師の紹介
16:35～15:10	小、中とも拠点校内で7つのブロックに分かれる ・仮想事例を基に指導方法を話し合う 15分 ・拠点校に戻り、ブロックごとに話し合った内容を情報交換し、指導の違いや幅の広がりを捉え、違いをまとめる 15分 ・まとめを発表する(3つくらいのグループを指名) 5分  講師による講演と講演 「児童・生徒の課題をどのようにとらえるか―指導方法の工夫―」
15:10～16:10	小学校から中学校への指導の引き継ぎ ・中学校から、小学校の拠点校に分かれて入り、情報交換する (講師の先生は退席)
16:10～16:30	その他 ・拠点校ごとに話し合う会場設営をする ・研修室の確保 ・講師の先生には、各ブロック内での発表場面で期間巡視して発表内容を聞いていただけると、全体への発表時間をとらなくて済むので、時間短縮になると思われるので、打診していきたい ・4:10からの情報交換の時間帯は講師の先生を控室で接待する